



No. 36
2017.3

豊田森林組合

ウツディとよた Woody Toyota Communication 通信

完成 下山支所





大型製材工場が動き始めました。

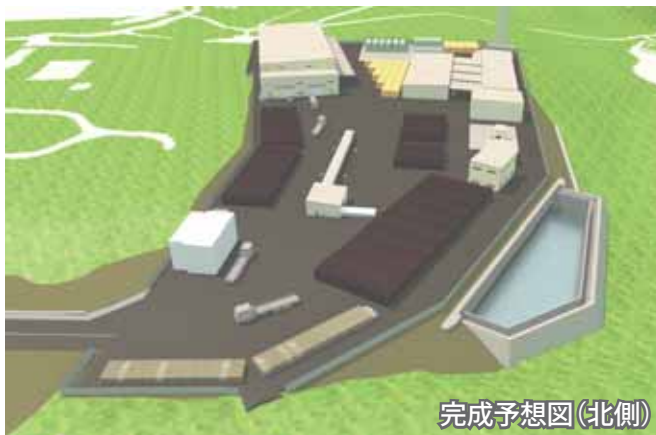
平成30年度稼働(予定)



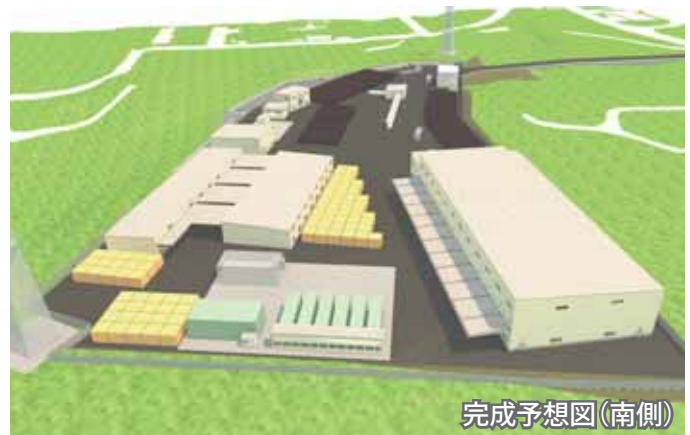
西垣 雅史 氏

豊田市御船町にて平成30年度の稼働を予定しています『西垣林業 豊田大型製材工場(仮称)』の造成工事が着々と進んでいます。豊田大型製材工場では豊田森林組合様を含めた愛知県内の森林組合様からの安定した原木供給を希望しており、昨年12月7日(水)に県内の6森林組合様と愛知県森林組合連合会様および弊社の3者協定の形態で「間伐材等の安定取引に関する協定書」を締結させて頂きました。

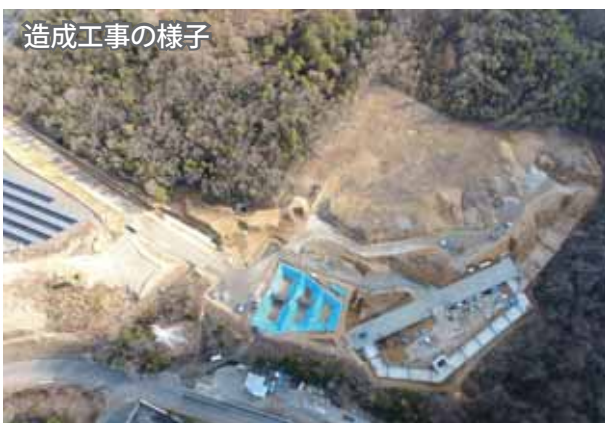
木材需要の多くを占める新設住宅戸数は長期的な減少傾向が予想されていますが、私たちは地域材の製材工場であることをストロングポイントと考え、地域の原木を地域で製材し、地域の皆さんにご利用いただける製材品開発に力を注ぐことで、皆さんと共に地域林業・木材産業の発展に貢献したいと考えています。(西垣林業(株) 副社長 西垣雅史)



完成予想図(北側)



完成予想図(南側)



造成工事の様子

豊田大型製材工場(仮称)工場規模

	平成30年度(初年度)	平成34年度(5年度)
原木取扱量	25,000m ³	45,000m ³
内 製材数量	(18,000m ³)	(30,000m ³)
内 チップ数量	(7,000m ³)	(15,000m ³)
製材品生産量	9,000m ³	15,000m ³
製材品販売量	7,800m ³	15,000m ³

●ヒノキ60%、スギ40%の製材割合を想定

大型製材工場稼働に伴う組合の取組と組合員の



平成30年度から稼働する大型製材工場が安定した事業運営を行うことで、地域の木材産業の拡大と新たな木材の活用方法の開発など、多くの効果が期待されます。また、近郊で消費されるため、運搬コストの低減により価格へのメリットも直接的に期待できます。このため当組合では、愛知県森林組合連合会と協同し、木材の安定供給体制を作りながら、事業地確保や森林整備による生産可能な山づくりにさらに力を入れ取組んでまいります。

木材利用は いろいろな所から

間伐材カローラ

公益財団法人「あすて」が創立50周年を記念して、市内の下山地区から搬出された間伐材を利用して原寸大のカローラを製作されました。

あすて森のプレゼント事業代表の碓伸夫氏が中心となって2年の歳月を掛け、細部に至るまで忠実に再現された力作です。今年の一月まで参合館で展示されていました。

豊田市の基幹産業である自動車と豊富な資源である木材の融合であり、新たな豊田市の象徴ではないでしょうか。





下山支所が完成しました。

住所：豊田市大沼町浜松 32-1
電話：0565-90-2124

年度当初から建替え工事を進めてまいりました下山支所の事務所が完成しました。

平成29年2月22日(水)には来賓を招いての竣工式を挙行し皆さんにお披露目をしました。内・外装に木材をふんだんに使用し、地元の風土に溶け込んだ造りとなっています。3月から新事務所で業務を開始していますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。



平成29年度にGISを導入します。

平成29年度に森林管理システム(GIS)の稼働に向けて現在準備を進めています。

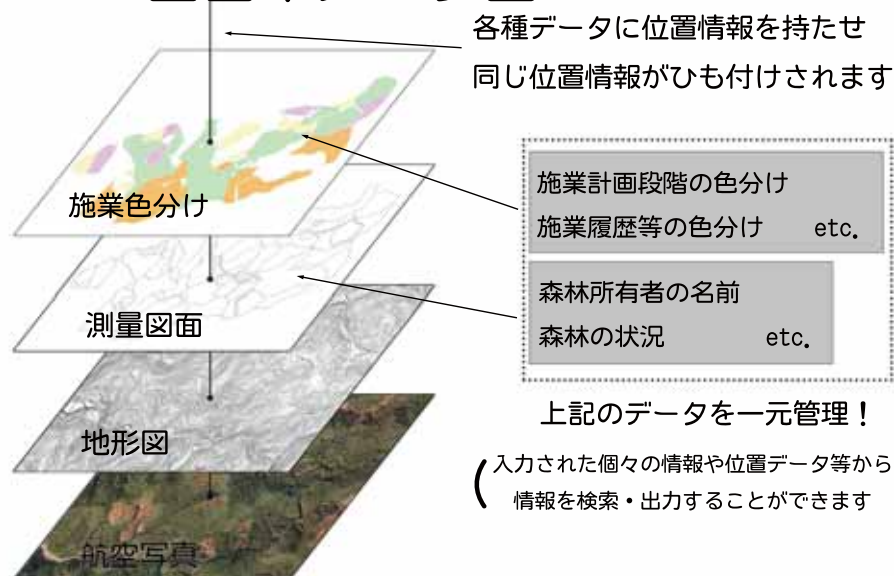
今まで個別でデータ管理していた山林情報・測量図・施業履歴等一元管理可能となります。

また、航空写真・地形図を併用しての森林管理が可能です。

森林管理システムの導入により、所有山林の情報が素早く提供できると共に、過去の施業履歴等を基に、適切な森林管理の提案が可能となります。

森林所有者皆さまの情報を扱うため、情報の流出・漏えい等細心の注意を心がけたいと思います。

・GIS 図面イメージ図



海外の森づくり・人づくりを見てきました。 欧州先進地視察

平成28年11月13日(日)から24日(木)にかけて豊田市の「森づくり構想」のリニューアルに伴い先進地視察に当組合から職員有志2名が同行してきました。主な目的はドイツ・スイスにおける「人材育成」と「森づくり」の視察です。

▶ 海外研修を通して今後の組合の姿

日本が手本とするドイツ・スイスの人材育成は、森林を大切にする国民性をそのままに反映させたような教育システムをとっています。大切な記念樹を育てるように、貴重な人材も幼少の頃から大切に森林のプロ意識と技術を育てていきます。連邦制の2国は、州単位で独自の制度のもと、その地域の実情を生かした森林施策を展開しています。私たち日本もそれぞれの地域の特徴を生かした森林施策を実現できるように、一つ一つの組合組織が地域林業の担い手として期待されるようにこれからの森林の理想像を描いていかなければなりません。今の森林所有者からもう一世代か二世代後になるかも知れませんが、まずは、その時に喜ばれることを願って森林整備に取り組んでいきます。



フォワーダによる積込



若きフォレスター



タイヤ型ハーベスト



学校にて聞き取り



現場での森づくりレクチャー



かまぼこ型作業道

▶ 欧州型の森づくりとは

スイス・ドイツでは度重なる自然災害や木材価格の低迷を契機に、様々な樹種・樹齢が混交する自然に近い森づくりが進められています。このように環境と林業経営の両立を目指す森林管理を行うことを「近自然森づくり」といいます。様々な樹種・樹齢があることにより、ユーザーの要望に応えることができ、価格面でも優位に立つことができます。また、欲しいときに欲しいものだけ出すために林道は何時でも使えるように水道ができないように工夫がされています。道はかまぼこ型になり雨が降っても道の流れない仕組みになっています。林道は、林業の為だけではなく、人が簡単に立ち入り自然と触れ合えるような公益的な一面も持っています。これが、スイス・ドイツも森づくりです。

○「人材育成」「森づくり」とも今後の組合運営にとって重要な課題であります。

○今回の視察を通して豊田市の森林の将来像を考える有益な視察でした。



韓国にて都市木質化会議に参加しました。

平成28年12月1日(木)から4日(日)まで韓国仁川市にて開催された都市の木質化会議に組合職員2名と市森林課2名が参加しました。この会議は名古屋大学農学部佐々木先生が始めた「山の問題は山だけでは解決できず都市部で木材を利用する事で山と都市部の問題を同時に解決していこう」という取り組みに共感した韓国の忠南大学のカン先生に招待され日本での国産材の利用方法と韓国での国産材の利用方法を互いに発表しあい、問題点を共有し国産材の使用量拡大をどうすれば伸ばすことが出来るかを話し合いました。

両国とも同じ悩みを抱えており、今後連携を図り情報交換をしていきたいと思います。



豊田市の森づくり構想リニューアルに伴う先進地視察

平成28年12月20日(火)～22日(木)の3日間、市森林課の視察に当組合から3人同行する形で、長野・岐阜両県へ行き、人材育成や林業事業体育成及び天然林施業の取組みについて調査を行なって参りました。

長野県林業大学校と岐阜県立森林アカデミーでは、高卒者を2年間教育し林材業界に送り出しており、教育環境や応募状況、教育カリキュラムや卒業生の進路等について聞き取り調査を行いました。大町市の荒山林業では約100年生のカラ松を主体にブナやミズナラを交えた針広混交林を視察し、施業方法について聞き取りを行いました。たかやま林業・建設業協同組合では林道の開設や搬出間伐に、建設業が得意の工程や予算の管理手法・安全管理体制等について調査を行いました。

それぞれの課題に対応した視察でありましたが、当地域も今までの人工一斉林短伐期皆伐更新施業から、これからは高齢林施業・広葉樹施業やそれらを組み合わせた針広混交林施業等の技術者養成が必要であると強く感じた視察でした。



たかやま林業建設業(協)



岐阜県立森林文化アカデミー



天然林施業現場



地域林業活性化にむけて。

○循環型林業技術の現場見学会

平成29年2月24日(金)に稲武地区にて循環型林業技術の現場見学会および意見交換会が開催され、森林所有者の方をはじめ林業関係者約100名を超える参加がありました。稲武地区での実証事業の取組報告を通して、「主伐・再造林・獣害対策」の理解を深めてもらうよい機会となりました。

現在、当組合は「森づくり会議の団地集約化施業」を間伐施業中心に森林整備を進めております。まだまだ多くの要間伐森林を抱え間伐中心の施業になりますが、今後の多様な森林の将来像を考えたときに「主伐・再造林」についての提案力や技術力も養っていただけるよう取組を続けます。

○循環型林業の取り組みを支援します(愛知県より)

本県のスギ、ヒノキ人工林資源は林齢46年以上のものが8割弱を占めるまで、成熟してきており、利用期を迎えています。

さて、近年、県内外において大型製材工場の稼働や、木質バイオマス発電所の建設の動きがあり、このような木材需要の高まりに対応できるよう木材の安定供給体制の整備が必要となっています。

このような状況の中、県では間伐等による森林整備の推進と併せ、木材生産とともに森林の若返りを図る循環型林業を推進することとしており、今年度から創設された「主伐+獣害対策」への補助事業(循環型林業推進モデル事業)の活用や、技術実証事業による技術指導・人材育成等を通じ、森林組合や民間林業事業者等の取り組みを支援していきたいと考えております。

事業に関することや山林の管理については、豊田森林組合や県豊田加茂農林水産事務所林務課及び森林整備課までお気軽にご相談ください。

●今回の実証事業 収支等内訳表

内 容	収支状況		内 訳 等
主伐(皆伐)	丸太売上金額	1,760万円	○経費は木材生産費、積込み、素材運搬費、林産手数料、市場手数料の合計 ※消費税を含んだ金額で表示してあります。
	経費	1,205万円	
	木材生産収支	555万円	
植栽+獣害対策	経 費	278万円 ※今回は森林所有者負担なし	○植栽面積/1.66ha ○植栽本数/スギコンテナ苗 1,830本 スギ普通苗170本 ヒノキコンテナ苗 1,400本、コナラ普通苗400本 ○ネット延長/外周(ステンレス入り)597m、中仕切137m ○単木ガード/200本

●造林補助事業により実施した場合(1ヘクタールあたりの経費)

内 容	経 費	備 考
植栽+獣害対策	65万円(198万円)	・現行の造林補助制度と愛知県の標準単価を活用した場合の森林所有者の負担試算額(森林経営計画有り) ・()書きは補助制度を使用しない場合の総事業費
下刈5回+除伐	37万円(115万円)	

※主伐は、林分状況により丸太売上金額および経費が大きく変動するため、事業地毎お見積りになります。



平成28年度循環型林業推進モデル事業実施状況
(豊田森林組合作業実施)



平成28年度循環型林業技術実証事業完了後状況
(豊田森林組合作業実施)

〈事業地の概要〉

場所/稲武町大クゴ地内
面積/2.17ha
樹種・林齢/スギ・ヒノキ約80~90年生
平均胸高直径/スギ34cm、ヒノキ26cm
立木本数/1,252本(スギ564本・ヒノキ688本)

今回の

イチおし!

森林組合購買部から皆さんのお役に立てる
「イチおし商品」を紹介します。

土佐打刃物

舟行包丁 (先着30本) **¥4,000**(税別)

本場の職人さんが作った土佐打刃物の包丁はいかがですか?

数打ち品とは一味違った切れ味をお試しく下さい。



(刃渡165mm)

※ご購入の際は**ご予約**をお願いします。

アルミフレーム

アルミー輪車 ブレーキ付き **¥15,600**(税別)
ブレーキなし **¥6,000**(税別)

アルミフレームでブラバケット!!

軽いので農作業等、幅広くお使いいただけます!!
坂道などで安全に運べるブレーキ付きもご用意しています。



※ご購入の際は**ご予約**をお願いします。

▶お問合せ・ご予約／豊田森林組合 購買 鈴木まで **TEL 0565-61-1616**

林業機械即売会を開催!!

新製品からお値打ち商品まで
ご用意しております。

隣近所お誘いの上、皆様のお越しを
お待ちしております。

※本所は6月頃を予定しています。



日時 平成29年4月22日(土)
9:00~16:00

会場 旭支所 (小渡町)

日時 平成29年4月29日(土)
9:00~16:00

会場 稲武支所 (桑原町)

豊田森林組合(支所)お問い合わせ

豊田支所 TEL/0565-41-2010 FAX/0565-41-2130	下山支所 TEL/0565-90-2124 FAX/0565-90-2322
小原藤岡支所 TEL/0565-65-2003 FAX/0565-65-1727	旭支所 TEL/0565-68-2821 FAX/0565-68-2823
足助支所 TEL/0565-62-1818 FAX/0565-61-1617	稲武支所 TEL/0565-82-2032 FAX/0565-82-3020

【発行日】平成29年3月21日
【発行】豊田森林組合
〒444-2424
豊田市足助町横枕5番地
TEL 0565-61-1616
FAX 0565-61-1617
<Eメール>
info@woodytoyota.net

組合員の
皆さまへ
「お願い」

土地所有者名義変更等、
「変更届け」は90日以内に。

豊田森林組合の組合員の皆さんで、住所の変更や相続などで土地所有者名義等に変更があった場合には、変更届けを90日以内に提出して下さい。お願いします。



<ホームページ> <http://www.woodytoyota.net/>